

テーマ：雇用関連統計（2007年3月）

発表日：2007年4月27日（金）

～06年度失業率は4.1%と4年連続で改善～

 第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 結城 良彦
 TEL：03-5221-4573

要旨

- 3月の完全失業率は4.0%と5ヶ月連続横ばい。労働市場への参入者が増えているため、失業率は下がりにくい状況だが、就業者数、雇用人数は増加傾向にあり、良好な雇用環境が続いている。
- 06年度の失業率は前年から0.2ポイント改善の4.1%。失業率の低下は4年連続となった。
- 有効求人倍率は先月から0.02ポイント低下し1.03倍となった。求人倍率にはこのところ頭打ち感がみられるが、企業の手不足は強まっていることから、求人倍率の低下を過度に不安視する必要はない。しばらくは景気に加速感が出にくい状況が続くため、雇用の改善ペースもやや弱まる可能性があるが、年後半から景気は再び回復を強めてくると見込まれる。雇用環境も当面は良好な状態が続くといえそうだ。

（単位：%、万人、倍）

		労働力調査									一般職業紹介状況			
		労働力人口		就業者数		雇用人数		失業者数		完全失業率	有効求人倍率	新規求人倍率	新規求人	
		季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	季調値	季調値	前期比	
05	4月	6,644	▲ 26	6,349	▲ 2	5,389	21	296	▲ 25	4.5	0.93	1.41	0.8	
	5月	6,670	34	6,372	46	5,401	41	299	▲ 12	4.5	0.94	1.44	2.2	
	6月	6,638	15	6,355	44	5,384	45	282	▲ 29	4.3	0.95	1.48	1.0	
	7月	6,654	8	6,360	37	5,384	28	292	▲ 29	4.4	0.96	1.49	▲ 0.9	
	8月	6,644	▲ 21	6,355	10	5,386	15	288	▲ 30	4.3	0.97	1.49	0.7	
	9月	6,675	43	6,390	68	5,440	101	284	▲ 24	4.3	0.98	1.49	0.1	
	10月	6,673	50	6,376	57	5,442	95	296	▲ 7	4.4	0.98	1.45	▲ 0.6	
	11月	6,647	25	6,347	22	5,409	50	300	2	4.5	0.99	1.51	1.0	
	12月	6,645	4	6,352	9	5,417	56	291	▲ 5	4.4	1.01	1.57	0.6	
	06	1月	6,656	4	6,364	8	5,447	92	292	▲ 4	4.4	1.03	1.56	0.9
		2月	6,660	17	6,385	48	5,476	126	276	▲ 31	4.1	1.04	1.56	0.6
		3月	6,646	24	6,372	48	5,469	111	276	▲ 24	4.2	1.02	1.51	▲ 3.6
4月		6,633	▲ 10	6,364	16	5,456	69	271	▲ 26	4.1	1.04	1.53	0.8	
5月		6,650	▲ 17	6,380	13	5,473	78	271	▲ 30	4.1	1.06	1.61	4.5	
6月		6,658	19	6,376	20	5,484	101	281	▲ 2	4.2	1.07	1.58	▲ 1.6	
7月		6,643	▲ 11	6,372	11	5,460	73	271	▲ 21	4.1	1.09	1.58	1.3	
8月		6,653	10	6,377	22	5,469	81	276	▲ 12	4.1	1.08	1.60	0.1	
9月		6,662	▲ 11	6,382	▲ 6	5,479	40	279	▲ 5	4.2	1.08	1.57	▲ 2.1	
10月		6,677	5	6,404	28	5,485	45	273	▲ 23	4.1	1.07	1.53	▲ 3.2	
11月		6,683	33	6,416	66	5,490	80	265	▲ 33	4.0	1.07	1.60	3.3	
12月		6,665	18	6,394	39	5,473	53	269	▲ 21	4.0	1.07	1.60	▲ 0.7	
07	1月	6,636	▲ 19	6,373	9	5,496	48	264	▲ 28	4.0	1.06	1.51	▲ 2.3	
	2月	6,683	23	6,415	30	5,535	58	268	▲ 7	4.0	1.05	1.51	2.1	
	3月	6,683	35	6,416	43	5,530	60	269	▲ 8	4.0	1.03	1.50	▲ 4.7	

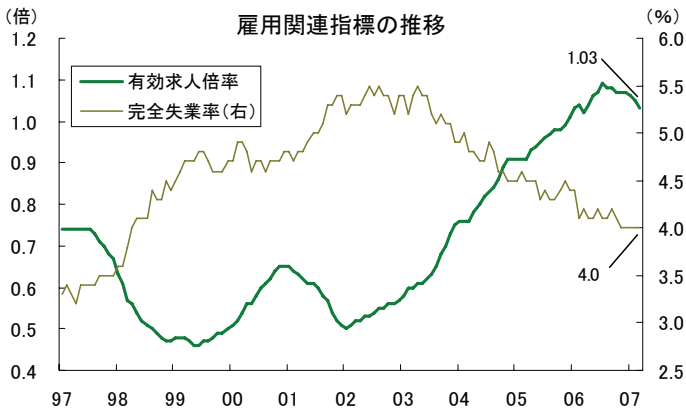
（出所）総務省「労働力調査」、厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 失業率は5ヶ月連続で横ばい

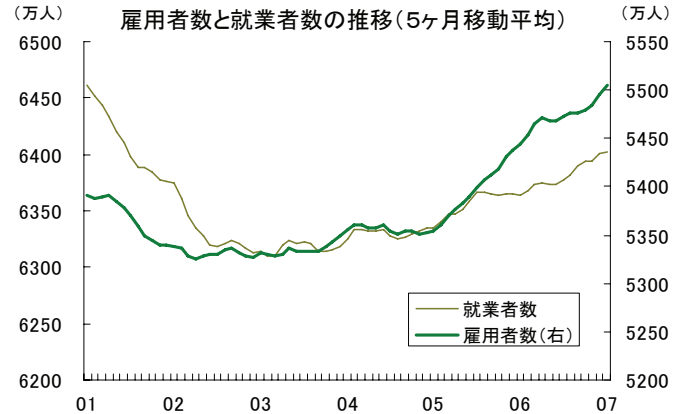
3月の完全失業率は4.0%と市場コンセンサス通りの結果であった。失業率はこれで5ヶ月連続で横ばいとなり、やや改善ペースが鈍ってきている。もっとも、就業者数、雇用人数は増加傾向にあり、良好な雇用環境が続いていることに変わりはない。就業者数は前年同月で+43万人と6ヶ月連続で増加し、雇用人数も同+60万人と25ヶ月連続の増加となった。また、正社員が増加傾向にあるという状況も変わっていないとみられ、雇用の質の面でも改善が続いている。従業員規模別でみると、このところ500人以上の企業におい

て雇用者数の伸びが強まっており、今月も前年同月差+77万人（前年同月比+6.1%）となった。団塊世代の退職による人手不足が指摘される中、大企業が積極的に採用を推し進めている様子が窺える。足元で失業率が下がりにくくなっているのは、景気回復を背景に労働市場に参入してくる人が増えてきているため、特に問題視する必要はないだろう。

同時に公表された06年度の失業率は、前年度から0.2ポイント低下の4.1%となり、4年連続の改善となった。07年度についても改善傾向は続くと考えられ、早晚3%台の失業率へ突入することが予想される。足元では景気の回復に比べて賃金の伸びが低迷しているが、こうした労働需給の逼迫により、賃金にも徐々に上昇圧力が加かってくるだろう。



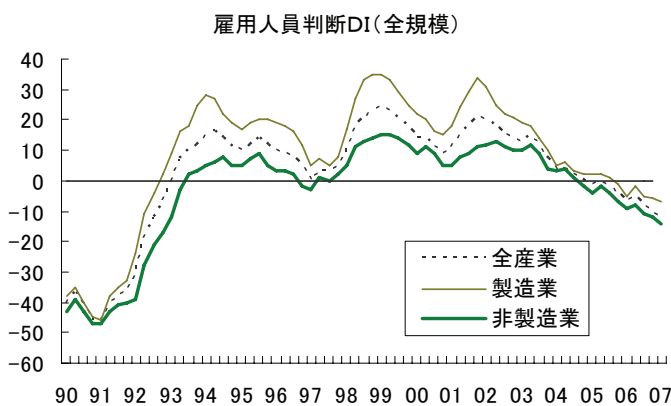
(出所)総務省「労働力調査」厚生労働省「一般職業紹介状況」



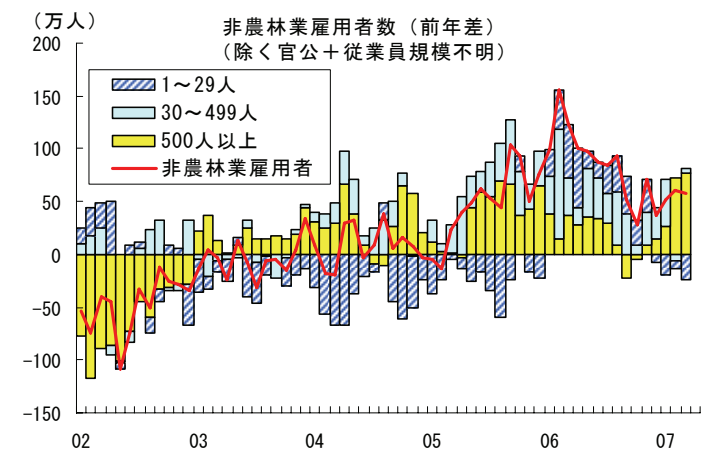
(出所)総務省「労働力調査」

○ 企業の採用意欲は強い

有効求人倍率は1.03倍と先月から0.02ポイントの低下となった。また、新規求人倍率は1.50倍と0.01ポイント低下した。有効求人倍率はこのところ頭打ち感が出てきており、7月に1.09倍をつけてからは低下を続けている。とはいえ、企業の採用意欲が衰えたわけではなく、この結果を過度に不安視する必要はないだろう。4月2日に公表された日銀短観では、雇用判断DIが7期連続でマイナスとなり、企業は労働力不足感を増していることがわかる。企業は景気回復に伴う循環的な雇用増加圧力の強まりに加え、団塊世代の大量退職に備えて企業は採用を拡大させてきており、足元での新卒採用活動も活発だ。しばらくは景気に加速感が出にくい状況が続くため、雇用も改善ペースがやや弱まる可能性があるが、年後半からは景気が再び回復を強めてくると見込まれている。当面は良好な雇用環境が続くといえそうだ。



(出所)日本銀行「企業短期経済観測調査」



(出所)総務省「労働力調査」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。